

1.興戸遺跡第17次発掘調査報告

1. はじめに

今回の調査は、京都府田辺警察署の耐震改修工事に伴うもので、京都府警察本部の依頼を受けて実施した。調査対象地は、現在の京都府田辺警察署敷地内とその南側で、西側に山並みが迫り、西から東に地形が下る丘陵の裾部にあたる。

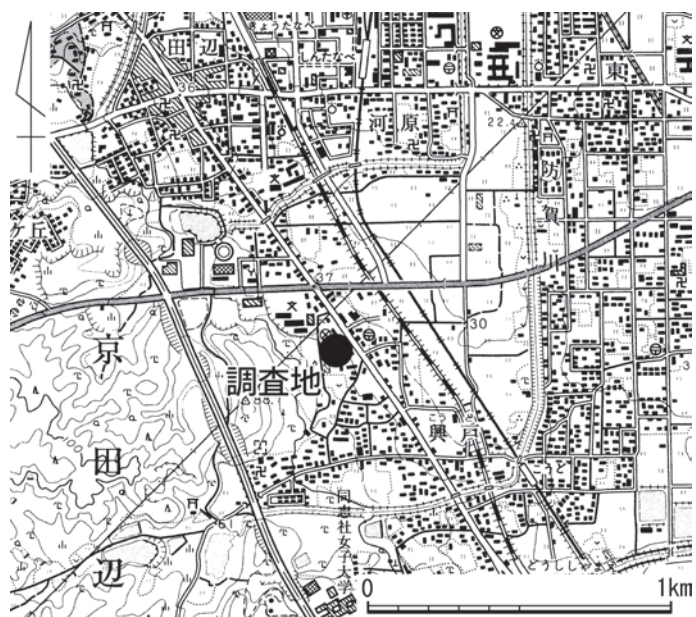
過去の興戸遺跡の調査では、弥生時代の溝、古墳時代の竪穴式住居跡・溝・貯蔵穴状の土坑や奈良・平安時代の掘立柱建物跡が検出されている。また、調査対象地は、奈良時代の古山陰道・山陽道を踏襲していると考えられている府道木津八幡線の西に隣接しており、関連遺構が包蔵されているものと想定された。また、今回の調査地の西側には興戸廃寺が想定されており、関連する遺構・遺物の検出が期待された。

調査対象地は、田辺警察署の敷地と旧京都府農業研究所の敷地にまたがるため、まず、敷地境をはしる水路を挟んで細長い調査区を設定し、調査成果等を確認し、関係機関と協議をおこなった上で、その北西側について必要な範囲を調査をすることとした。

平成23年6月20日に樹木伐採等に着手し、23日から1・5トレンチの重機掘削を開始した。その結果、古墳時代～中世にかけての遺構が分布していることが判明した。

8月4日に関係機関と協議を行い、1・5トレンチ周辺の調査を進めることを確認した。その後、8月8日から2・3・4トレンチを重機で掘削し、あわせて1・5トレンチの埋め戻しを実施した。8月30日から6トレンチの重機掘削を行った。9月22日には関係者説明会を開催し、7名の方の参加を得た。9月29日から10月4日まで重機により埋め戻しを行い、その後、機材の搬出・事務所の撤去を経て、6日に現地の引き渡しを行い、現地調査を完了した。なお、調査に係る経費は、全額京都府警察本部が負担した。

調査を進めるにあたり、京都府教育委員会をはじめ、京田辺市教育委員会、京都府警察本部、京都府田辺警察署などの関係機関のご指導、ご協力を得た。また、興戸区自治会や京田辺市立田辺中学校、社会福祉法人京都聴覚言語障害福祉協議会などの地元の方々からは多大なご協力をいただいた。記して、感謝したい。



第1図 調査地位置図(国土地理院 1/25,000 田辺)

〔調査体制等〕

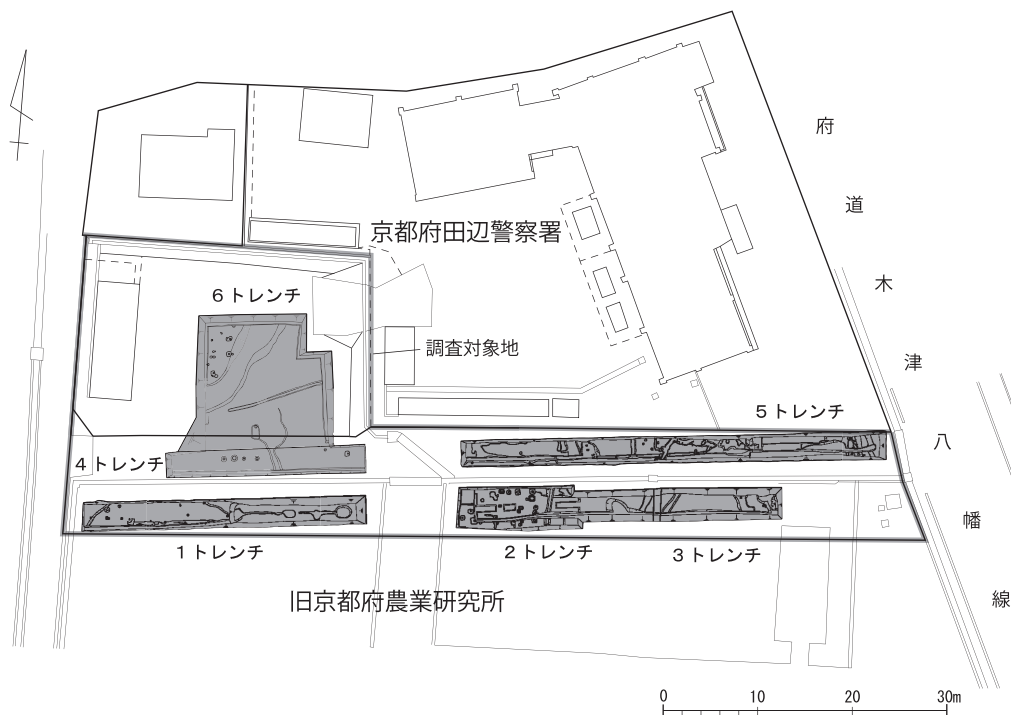
現地調査責任者 調査第2課長 水谷壽克
調査担当者 調査第2課調査第2係長 岩松 保
同 主任調査員 戸原和人
調査場所 京田辺市興戸小モ詰1番、7番の1
現地調査期間 平成23年6月20日～10月6日
調査面積 600㎡

2. 検出遺構

調査地の地形は西から東に下がっており、地表面の標高は、6トレンチで37.4m、1トレンチで37.2m、同5トレンチで35.8mを測る。基盤となる地層については、現在の地表下～1mまでが盛土層・沖積層(砂礫質土層、粘性土層)、1～3mまでが沖積層(粘性土層)、それ以深が大坂層群(砂・礫質土層)との報告があり(田辺警察署耐震改修工事ボーリング調査)、今回の調査では、いずれのトレンチでも沖積層の粘性土層や砂礫質土層内で遺構を検出した。

1) 1トレンチ(第2～4図) トレンチの西半では、第8層の上面で近世以降の耕作に伴う溝、第12層上面で奈良・平安時代、第13層上面では古墳時代の遺構を検出した。

トレンチの東半部は、現地表下1m(標高35.2～35.4m)まで現代の攪乱が及んでおり、第12・13層は土層断面だけで確認した。その後、下層の断ち割りをを行った結果、標高35.4m付近では第22層の黑色シルトが沼状に水平堆積していた。第13層以下第23層にいたる土層はおおむね砂・砂礫を中心としたものであり、扇状地性の堆積と考えられる。

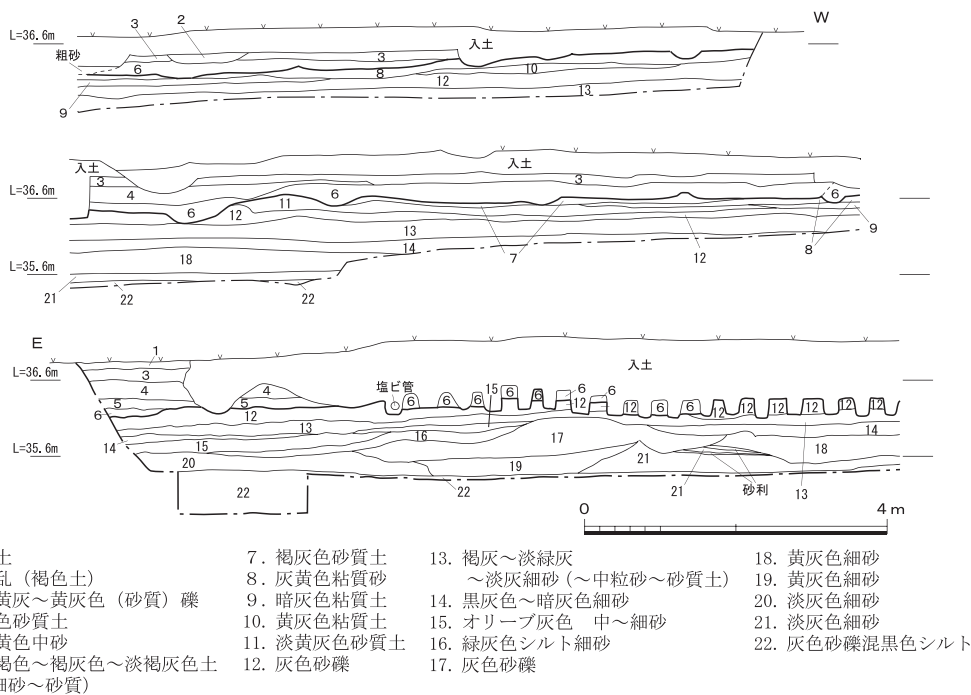


第2図 調査トレンチ配置図

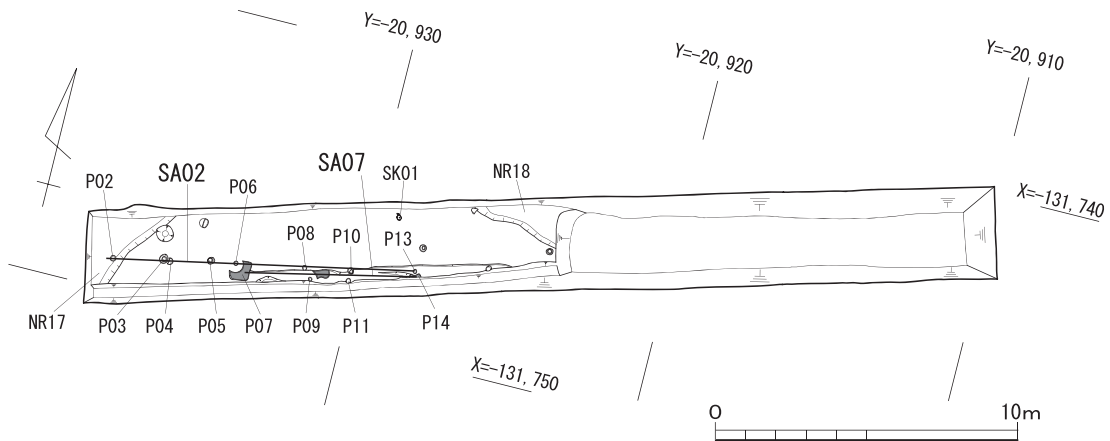
調査地の西半部では奈良・平安時代の柱列(SA02・07)と古墳時代の流路跡(NR17)、中央部で古墳時代の流路跡(NR18)を検出、東半部は現代の攪乱により遺構面は消失していた。

柵列SA02 調査地西半で検出した柱間6間以上の柱列である。10m分を検出した。柱穴の掘形は直径30～40cm、深さ30cmを測り、柱間の距離は西から1.7m、1.5m、0.7m、2.4m、1.5m、2.1mと不揃いである。一列しか検出しなかったため柵列に復元したが、複数の建物跡の可能性はある。主軸は座標北に対してN-11.5°-Wを測る。柱穴から第14図1・2の須恵器、灰釉陶器が出土した。

柵列SA07 SA02に並行して検出した。SA02の柱穴に切られており、SA02に先行した柵列である。柱間3間以上を検出し、柱間の距離は西から2.1m、1.2m、2.1mと不揃いであることから、複数の建物跡の可能性はある。柱穴から(第14図3)の須恵器杯が出土した。



第3図 1トレンチ南壁土層図



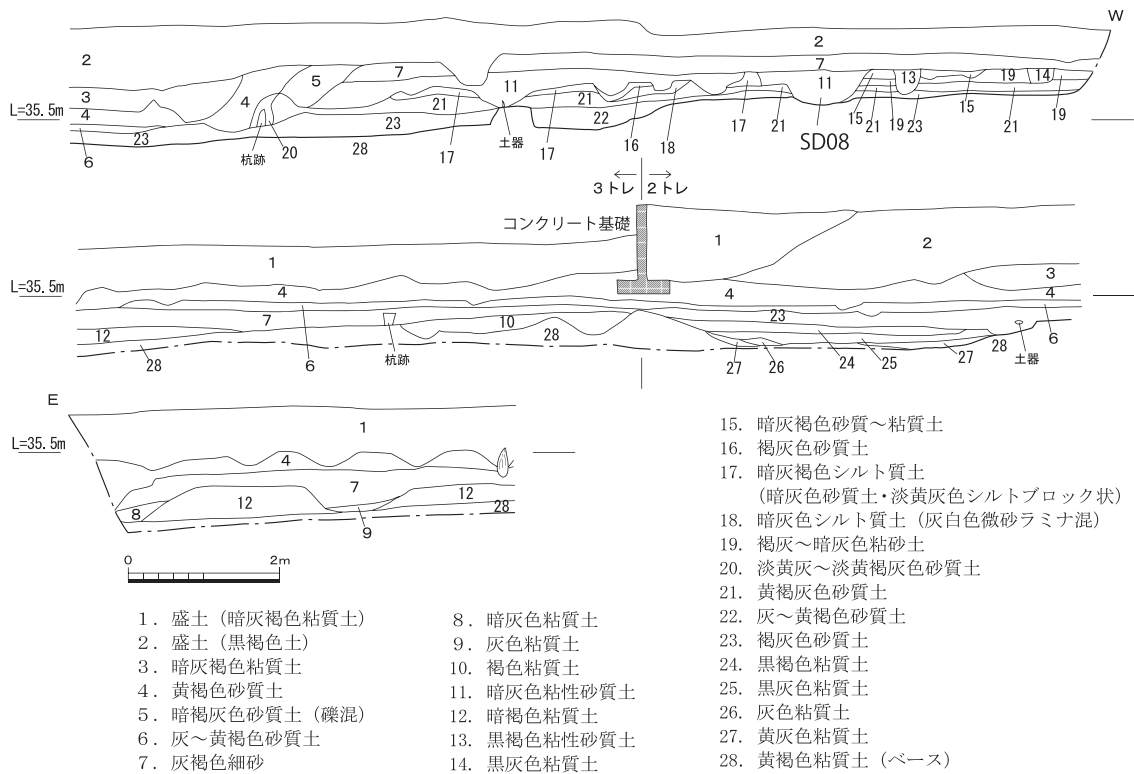
第4図 1トレンチ遺構配置図

流路NR17 調査地の西端で検出した。南西から北東に向かって流れる自然流路の一部である。幅0.85m、深さ0.2mを測り、長さ3.5m分を検出した。黒褐色粘質土を埋土としており、東肩部より土師器甕(第14図12)が出土した。

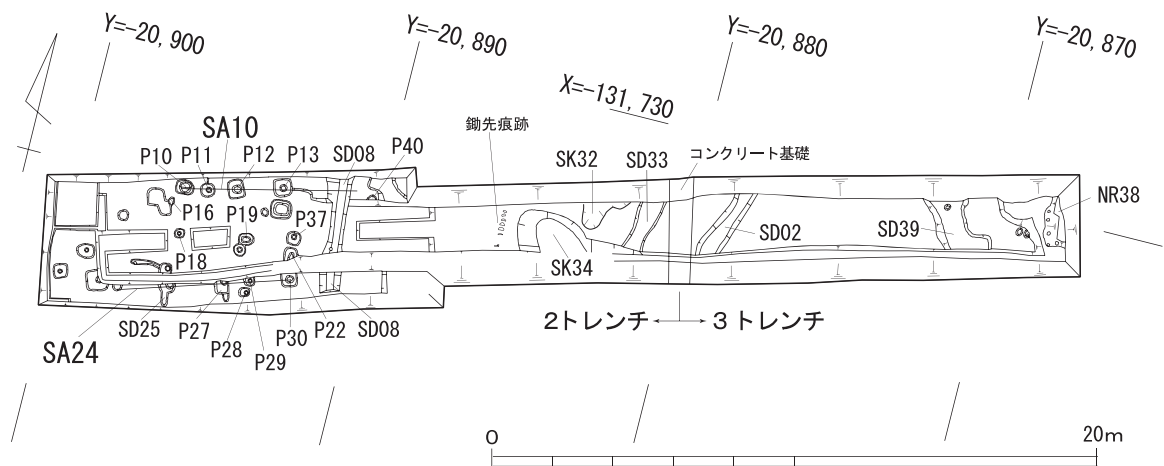
流路NR18 調査トレンチの中央部で検出した。幅1.5m、深さ0.25mを測る。検出状況が同じであることから、流路NR17とつながる可能性がある。

2) 2トレンチ(第2・5～7図)

2・3トレンチの現地表面は、約50cmの比高がある。第1・2層の盛り土層下には、第7層があり、2トレンチの中央部やや東で約0.7～1mの層厚で東側に下り、第3～5層が堆積する。この中央部の西と東で遺構を検出した層位が異なり、西側では第19・21・23層の上面で奈良時代



第5図 2・3トレンチ南壁土層断面図



第6図 2・3トレンチ検出遺構配置図

の遺構を検出した。東側では第7層上面で中世以降の耕作溝、その下層の第28層上面で古墳時代の土坑と水田跡(鋤先痕)を検出した。

調査地の西半部では奈良時代の柱穴と溝を検出した。柱穴が南・北・西の壁面にかかっていたため、それぞれ一部を拡張して遺構の検出に努めた。

柱列 S A 10 調査地西部北辺で検出した、東西方向の柱列である。柱穴の掘形は隅丸方形で、一辺50～70cm、深さ20～60cmを測る。掘立柱建物跡の一部と考えられるが、柱掘形の大きさや深さが異なっており、複数の建物跡の可能性もある。主軸はN11.5°Wを測る。柱穴から須恵器杯B(第15図39)、土師器甕(第15図40)、平瓦(第16図64)が出土した。

柱列 S A 24 調査地西部南辺で検出した、東西方向の柱列である。柱穴の掘形は隅丸方形で、一辺50～70cm、深さ20～57cmを測る。P30より須恵器杯(第15図41)が出土した。

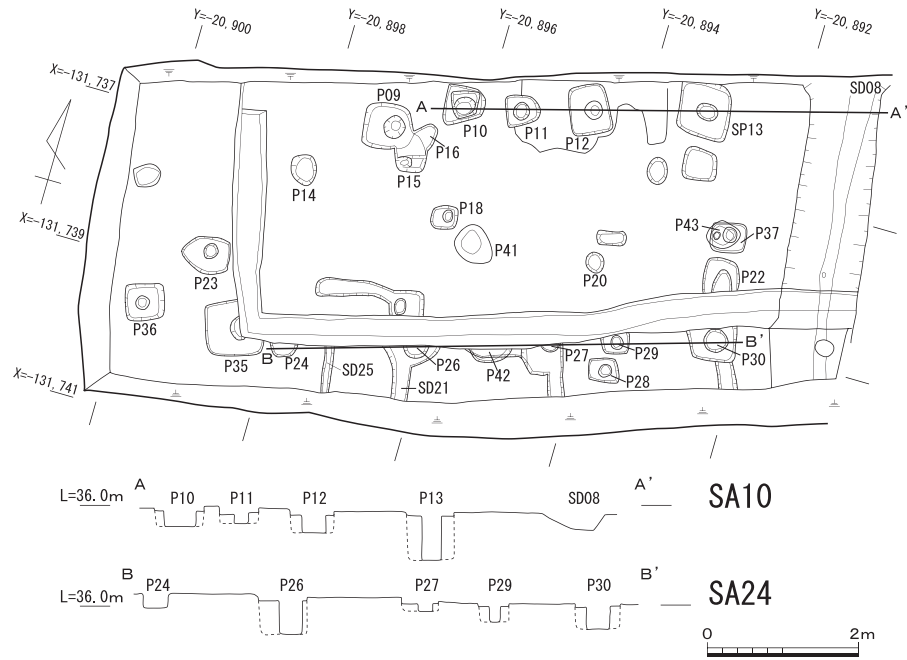
溝 S D 08 調査地西部の柱列 S A 10・24の東で検出した。埋土は第11層の暗灰色粘性砂質土である。幅0.9～1m、深さ25cmで、長さ4mにわたり検出した。溝の方位はN8°Wを測る。溝内から須恵器杯・蓋・壺、土師器甕などが出土した(第15図26～38・63)。

土坑 S K 32 調査地東寄りの北壁付近で検出した。東西・南北とも50cmを測り、北に広がる。5トレンチで検出した S D 01の延長部にあたり、大きく削平を受けているため、深さ数cmを検出したのみである。埋土から須恵器壺底部が出土した(第15図43)。

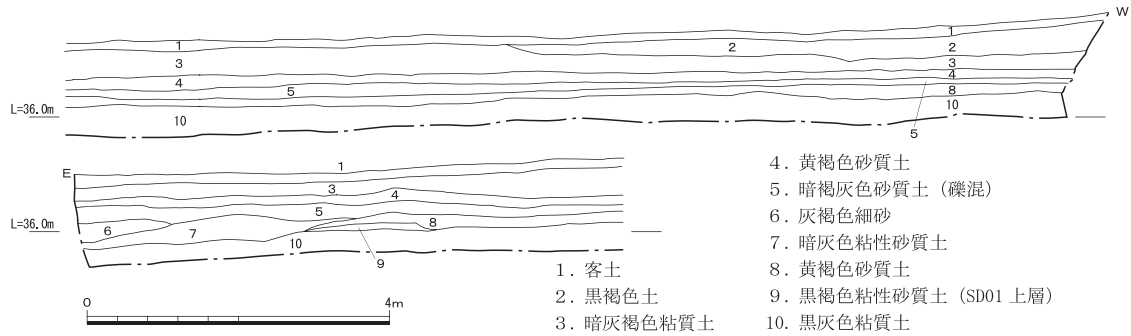
溝 S D 33 調査地の東端で検出した。幅0.3m、深さ10cmで、長さ2m分を検出した。3トレンチ S D 02と並走し、溝の方位はN10°Eを測る。埋土から瓦器片が出土した。

土坑 S K 34 S K 32の南で検出した。トレンチの南壁で幅5.2m、深さ30cmを測り、南に広がる。古墳時代の小型丸底壺(第17図93～95)が出土した。土坑の西側では、連続した鋤先痕と考えられる三日月形の凹みを検出した。同様の痕跡は、5トレンチの水田遺構でも検出した。

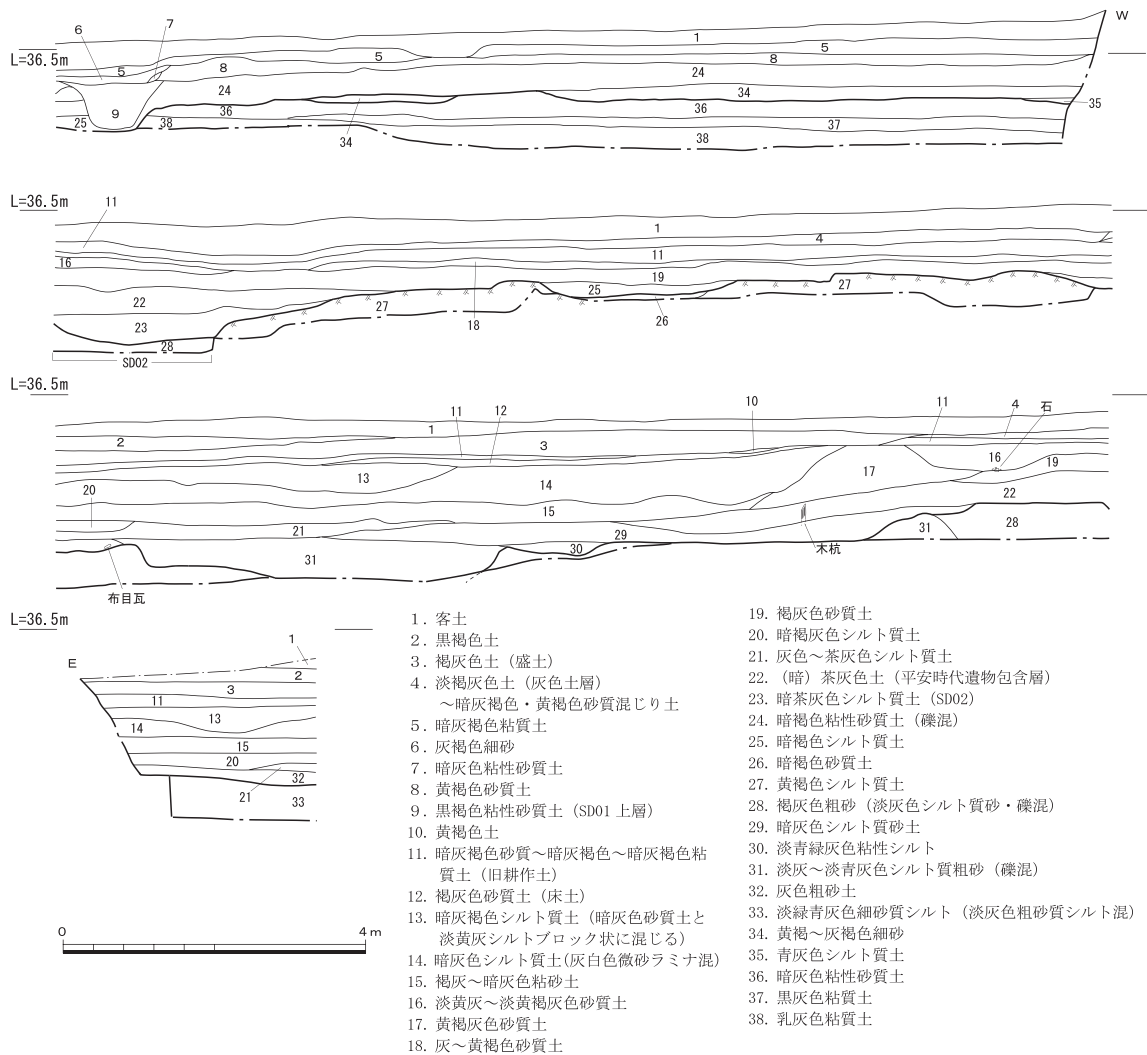
3) 3トレンチ(第2・5・6図) 3トレンチは2トレンチの東半部と同じ層序で、第7層上面で中世以降の耕作溝、その下層の第12・28層上面で奈良・平安時代の溝を検出した。調査地の東は地形が一段低くなっており、東端では中世以降の護岸の杭が打ち込まれた段差と沼状の粘土



第7図 2トレンチ西部遺構配置図



第8図 4トレンチ南壁土層図

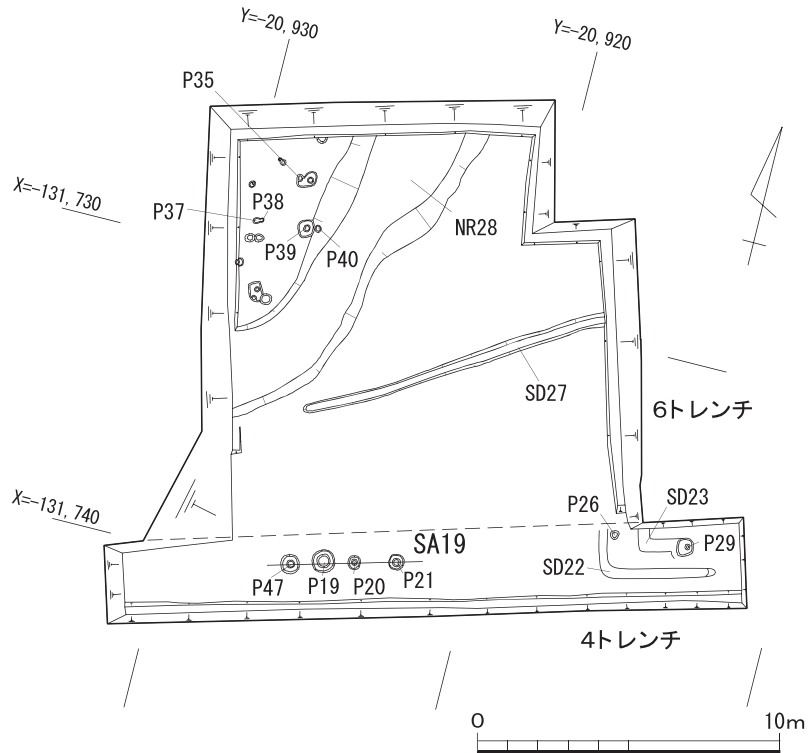


第9図 5トレンチ南壁土層断面図

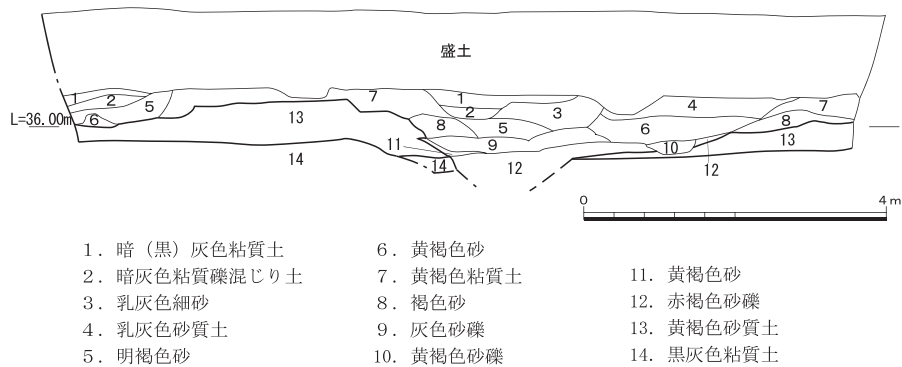
層(第8層: NR38)を確認した。

溝SD02 調査地の西端で検出した。幅0.7m、深さ0.3m、検出長は3mで、方位はN22°Eを測る。溝内からは平安時代末～鎌倉時代の瓦器椀や灰釉陶器(第14図13)などが出土した。埋土は第25層である。

溝SD39 調査地の東で検出した。幅1.2m、深さ30cmを測り、南北2.6mを測る。溝の方位は



第10図 4・6トレンチ遺構配置図



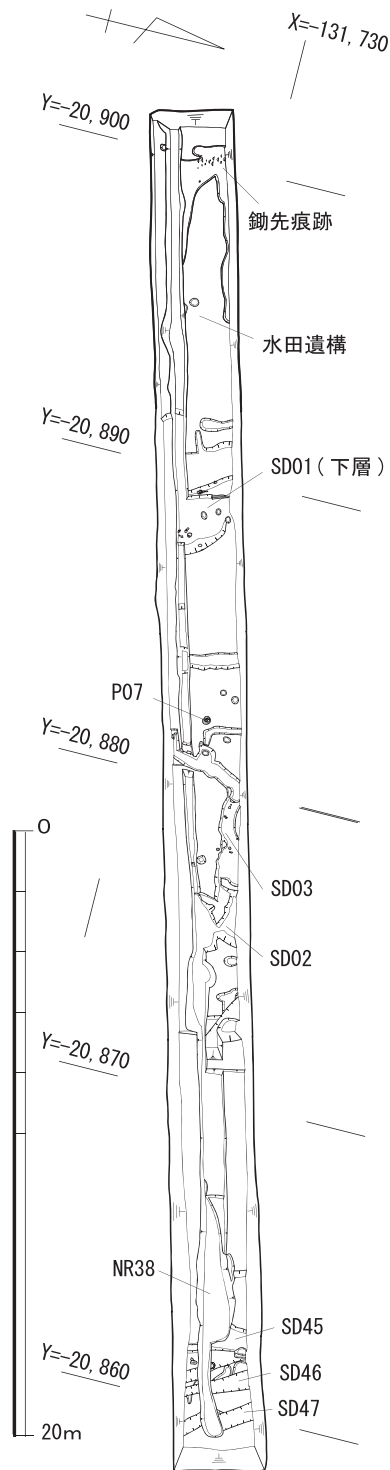
第11図 6トレンチ北壁土層図

N36.5° Wを測る。埋土は第9層である。

流路NR38 調査地の東端で西の肩部を検出した。幅1.7m以上、深さ50cmを測り、南北3.6m分を検出した。肩部には杭が打ち込まれ、杭と杭の間には同材の木を渡して護岸としている。埋土は第8層で、瓦器碗の破片が出土した。

4) 4トレンチ(第2・8・10図) 4トレンチでは第8層上面で中世以降の柱穴・溝、第10層上面で奈良時代の柱穴などを検出した。

溝SD22・23 調査地の東端近くで検出した。北から東に直角に折れる、並行する2条の溝である。SD22が検出長4.5m、SD23が検出長2.0mで、ともに幅20～40cm、深さ5cmを測る。耕作に伴う溝と考えられる。溝内から瓦器片が出土した。



第12図 5トレンチ遺構配置図

溝群SD45・46・47 トレンチ東端で検出した3条の細い溝である。溝の幅は30～50cm、深さ10cm程度である。溝の埋土(灰色粗砂土)から布目瓦が出土した。また、SD45周辺で、灰色粗砂土で埋まった牛の足跡を検出した。

水田遺構 トレンチ西端部で、第34層によって埋まった畦状遺構のほか鋤先でつけられたと考えられる連続した三日月形の凹みや不定形の稲株痕跡を検出した。出土遺物はないが、層位が奈

欄列SA19 調査地の中央部西寄りで検出した。柱穴は東西に3間分並ぶ。柱穴の掘形は円形で、直径30～40cmを測る。掘立柱建物跡もしくは欄列の一部と考えられる。主軸はN15°Wを測る。

柱穴P29 調査地の東端で検出した方形の掘形を持つ柱穴である。一辺30cm、深さ10cmを測る。北及び東に展開する掘立柱建物跡の一部と考えられる。

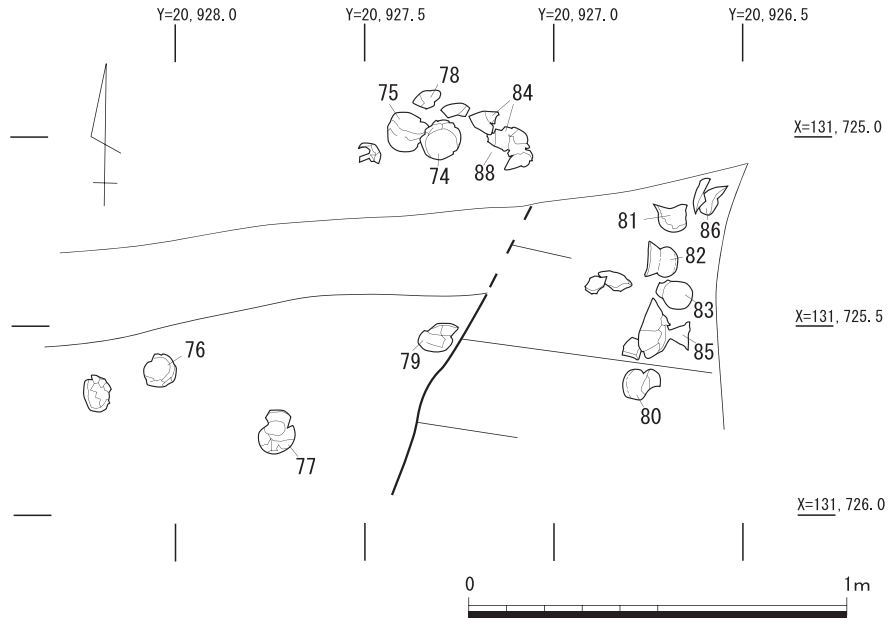
5)5トレンチ(第2・9・12図) 中央やや西よりにSD01(第9層)があり、これより東・西で区画が変わるものと判断される。西側ではほぼ水平に土層が堆積しており、第34層で埋まった奈良時代以前の水田跡を検出した。中央では、第27・28・31・33・36層上面で奈良・平安時代の遺構を検出した。東端では奈良時代の溝と牛の足跡、中世の沼跡NR38を検出、沼跡は、3トレンチのNR38と同一遺構と考えられる。

溝SD01 北西から南東方向の幅1.7m、深さ20cmの溝を南北2.7m分を検出した。溝の方位はN41°Wを測る。溝内から灰釉陶器、須恵器、黒色土器、平瓦などが出土した(第14図14～17、第16図68・70・71)。なお、この溝の上層において、現在の地割りに沿うかたちで、幅1.3m、深さ60cmの南北方向の溝を3m分検出している。

溝SD02 調査地の東寄りで検出した南西から北東に流れる溝である。南側の3トレンチでその延長部分(SD02)を検出した。埋土は第28層、土師器、瓦器椀などが出土した。

溝SD03 調査地の中央で検出した。南西から北東に流れ、調査地の北で東に折れる。幅0.3～0.5m、深さ10cmで南北方向に5.2m検出した。埋土は第25層、須恵器の杯や布目瓦などが出土した(第14図19～21、第16図69・72・73)。

柱穴P07 溝SD03の西側で検出した。直径20cm、深さ10cmを測り、平安時代頃と考えられる須恵器壺(第14図25)が立位で、穴の底に埋納された状況で出土した。



第13図 6トレンチNR28遺物出土状況図

良時代の遺構検出面(第36層上面)の下に位置するため、奈良時代以前と考えられる。

6) 6トレンチ(第10・11・13図) 6トレンチでは第14層上面で古墳時代前期の流路跡、奈良・平安時代の溝、柱穴を検出した。

柱穴P35・39 調査地の北西部で検出した隅丸方形の柱穴で、一辺50～70cmを測る。南北方向に柱筋を揃えて並んでいることから掘立柱建物跡もしくは柵列の一部と考えられる。

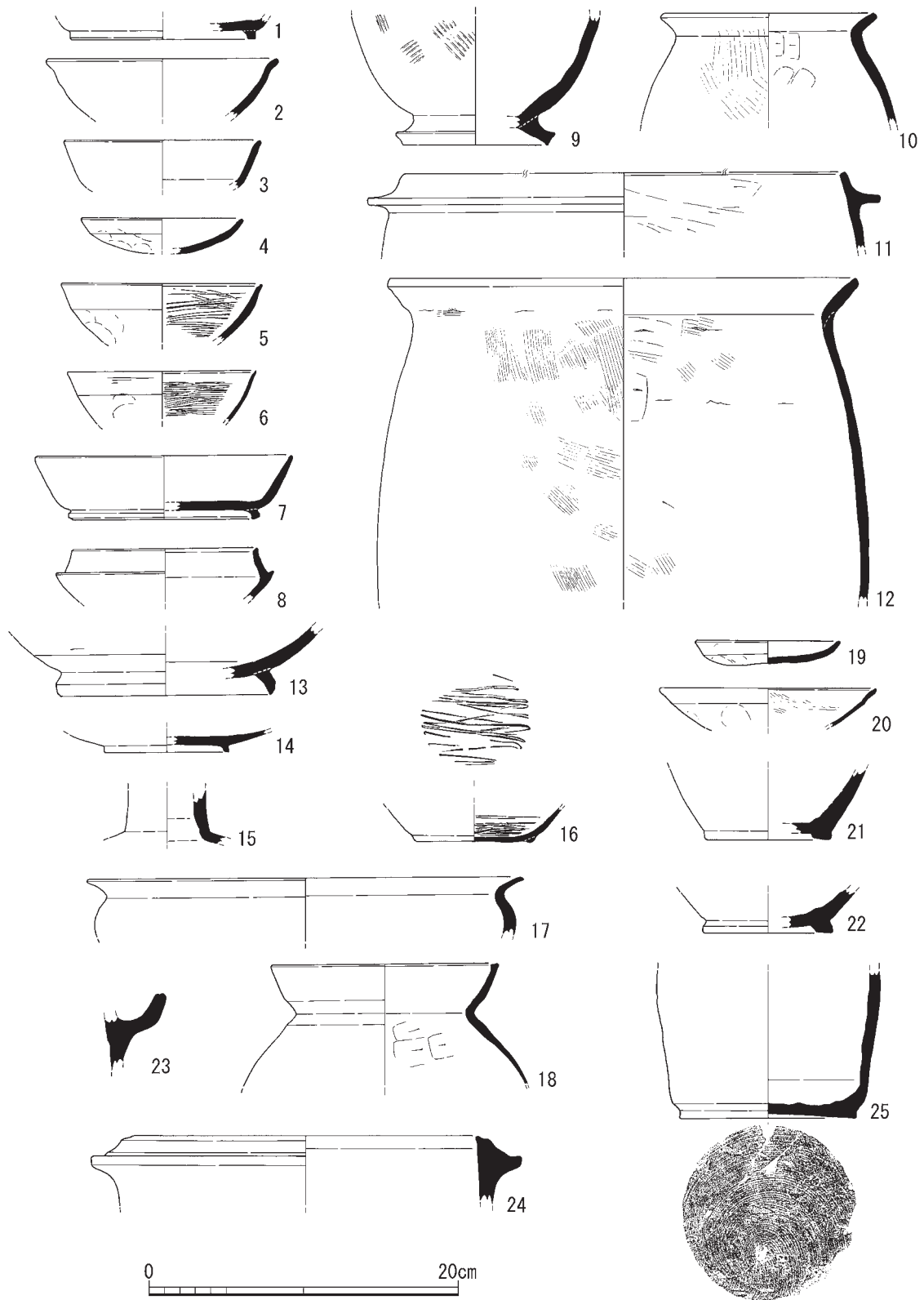
溝SD27 調査地の中央部で検出した東西方向の溝である。幅0.4m、深さ5cm、長さ10.5m分を検出した。溝の方位はN30°W、遺物は確認されなかった。

流路NR28 調査地の北西部で検出した、南西から北東に流れる流路跡である。流路は埋土の堆積状況から2時期に分けられる。上層は第12図第1～6層の砂層を主体とする。下層は第12図第9～13層の砂礫土及び砂質土からなる。基盤面となる第14層上面で検出した古墳時代以降の流路は、検出幅約2.5～4.0m、深さ1m以上、総延長24mを測る。トレンチ北壁隅部の流路の西肩部において、古墳時代の小型丸底壺、高杯、甕(第17図74～88)がほぼ、1～2mの範囲からまとまって出土した。これらの土器はほとんど完形に近いものばかりであり、二次的な移動は考えにくい状況にある。

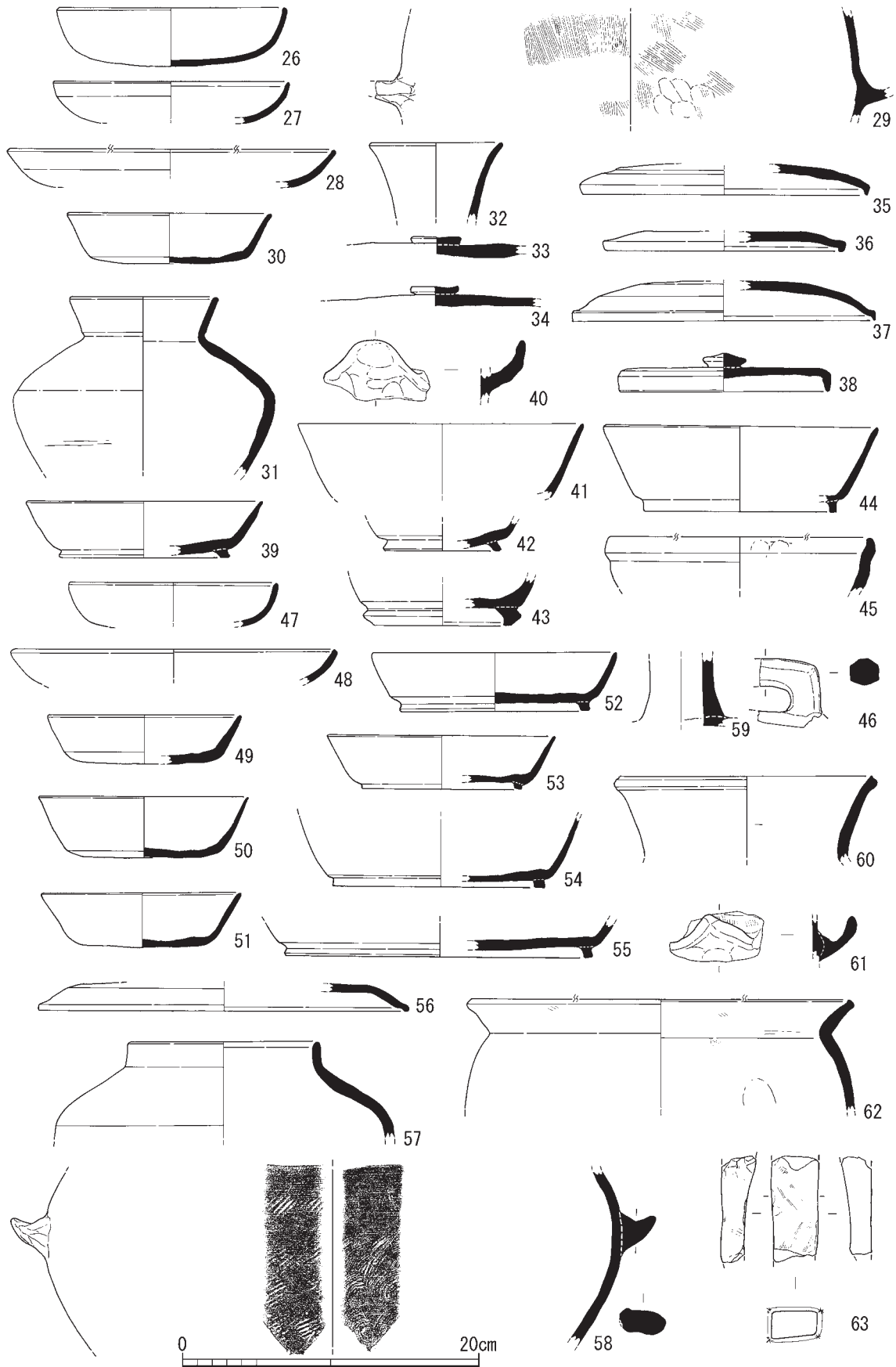
3. 出土遺物

各トレンチから古墳時代の土師器・須恵器、奈良・平安時代の土師器皿・甕、須恵器杯身・杯蓋・灰釉陶器・平瓦、中世の瓦器椀・羽釜・青磁・白磁などが整理箱6箱分出土した。以下主な出土遺物について報告する。

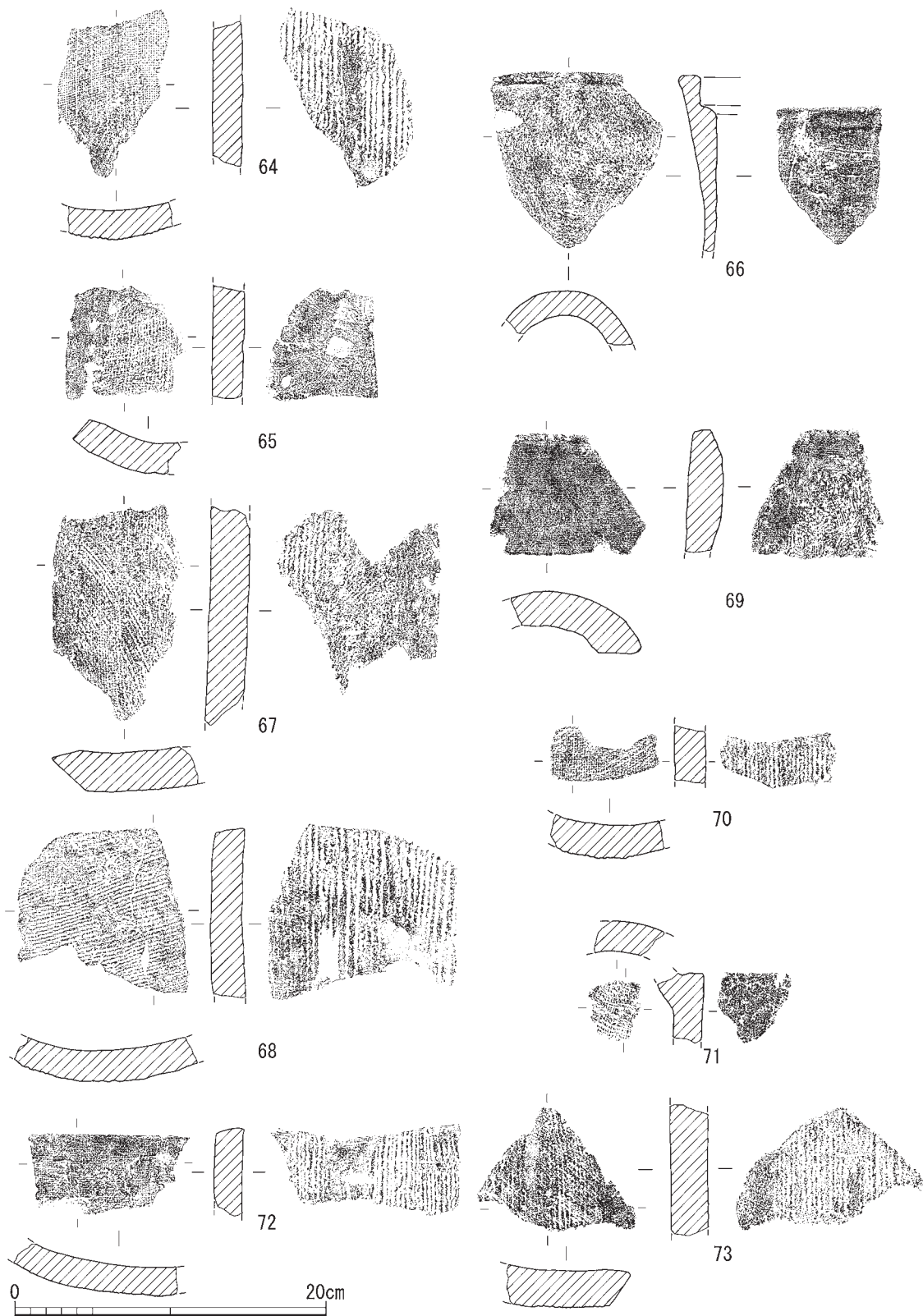
1) 1トレンチ(第14図) SA02を構成する柱穴P08内より須恵器杯B(1)が、P13内より灰釉陶器椀(2)が出土している。SA07を構成する柱穴P07内より須恵器杯(3)が、NR17より土師器甕(12)が出土している。



第14図 出土遺物実測図(1)



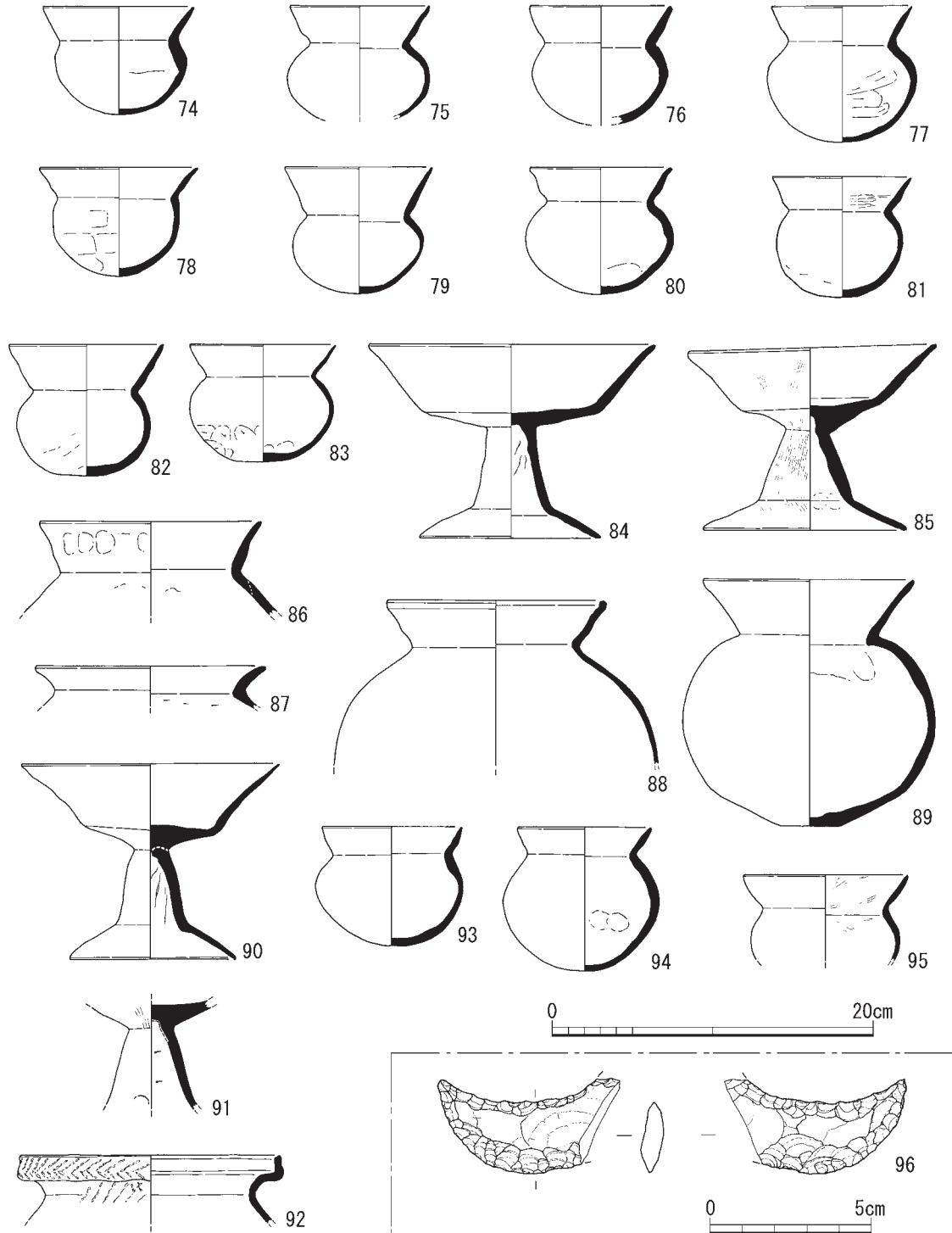
第15図 出土遺物実測図(2)



第16図 出土遺物実測図(3)

包含層中より黒色土器B類碗(5・6)、須恵器杯B(7)、同壺(9)、土師器甕(10)、瓦質羽釜(11)、古墳時代の須恵器杯身(8)が出土している。

2) 2トレンチ(第15・16図) S D08より土師器杯A(26・27)、同皿(28)、同把手付甕(29)、須恵器杯A(30)、同壺(31・32)、同杯蓋(33～37)、同壺蓋(38)、砥石(63)などが出土している。S A10を構成する柱穴P13内より須恵器杯B(39)、土師器甕把手(40)、平瓦(64)が出土している。



第17図 出土遺物実測図(4)

S A24を構成する柱穴P30内より須恵器杯(41)、柱穴P22より須恵器杯B(42)、P40より須恵器杯B(44)、P35より製塩土器(45)、P37より平瓶の把手(46)、土坑S K32より須恵器壺底部(43)が出土している。包含層中より土師器杯(47)、同皿(48)、須恵器杯A(49～51)、同杯B(52～54)、同皿B(55)、同蓋(56)、同壺(57・58・60)、同高杯(59)、土師器甕の把手(61)、同甕(62)、平瓦(65)、瓦製の土管(66)、S K34より小型丸底壺(93～95)などが出土している。

3) 3トレンチ(第14・17図) S D02より10世紀の灰釉陶器壺の底部(13)が、包含層中より弥生時代の安山岩製石小刀(96)などが出土している。

4) 4トレンチ(第16・17図) 4トレンチ包含層中より古墳時代の土師器高杯(90・91)、弥生土器の甕(92)、平瓦(67)などが出土している。92は受口状の口縁をもち、口縁端面に櫛描きの羽状文を施していることから、いわゆる近江系の甕と考えられる。

5) 5トレンチ(第14・16図) S D01より9世紀の灰釉陶器皿の底部(14)、須恵器壺の頸部(15)、黒色土器A類の杯B(16)、須恵器の鉢(17)、古墳時代の布留式甕(18)、平瓦(68・70・71)などが出土している。S D03より土師器皿(19・20)、10世紀の灰釉陶器壺の底部(21)、丸瓦(69)、平瓦(72・73)などが出土している。P07内より糸切り底の須恵器壺(25)が出土している。包含層中より9～10世紀の灰釉陶器壺の底部(22)、土師器甕の把手(23)、同羽釜(24)などが出土している。

6) 6トレンチ(第17図) N R28の北壁付近西側肩部と流路内より古墳時代前期の小型丸底壺(74～83)・高杯(84・85)・甕(86～88)が出土した。これらは、いずれも器壁の磨滅が激しく、粘土紐の痕跡を残すもの(74)や口縁部を強いヨコナデで仕上げるもの(79)、脚柱部内面に絞り痕を残すもの(84)など、粗雑な仕上げで共通する。S K34の土器群(93～95)とともに一括性の高い一群である。なお、トレンチの北東部では、底部が平底気味の壺(89)が単独で出土した。

4. まとめ

奈良、平安時代について、5トレンチの溝S D01が座標北に対してN41°W振れ、東端で検出した溝S D45～47がN31～33.5°W振れることから、これらの溝群が奈良時代の古山陰道・山陽道を踏襲していると考えられている府道木津八幡線(N34.5°W振れ)とほぼ並行しており、調査地近辺に当時の道路を基準にした地割りがあった可能性が考えられる。

また、出土遺物には布目瓦・灰釉陶器など、一般の集落ではあまり出土しないものが含まれており、調査地周辺に想定されている興戸廃寺の存在を考える上で貴重な成果といえよう。

古墳時代の流路N R28から出土した土器群はその出土状況や土器の特徴などから一括性の高いものといえ、調査地周辺にも同時期の土坑等が確認されていることから、古墳時代前期の集落が近在した可能性が高いといえる。

(戸原和人)



(1) 1・5 トレンチ空中写真
(西から)



(2) 2～4・6 トレンチ空中写真
(上が北)



(3) 5 トレンチ空中写真(上が北)



(1) 2・3トレンチ空中写真
(上が北)



(2) 2トレンチ西半部(東から)



(3) 土坑 S K34・鋤先痕(北から)



(1) 3 トレンチ溝 S D03(南から)



(2) 4・6 トレンチ空中写真
(南から)



(3) 自然流路 N R28 遺物出土状況
(南から)



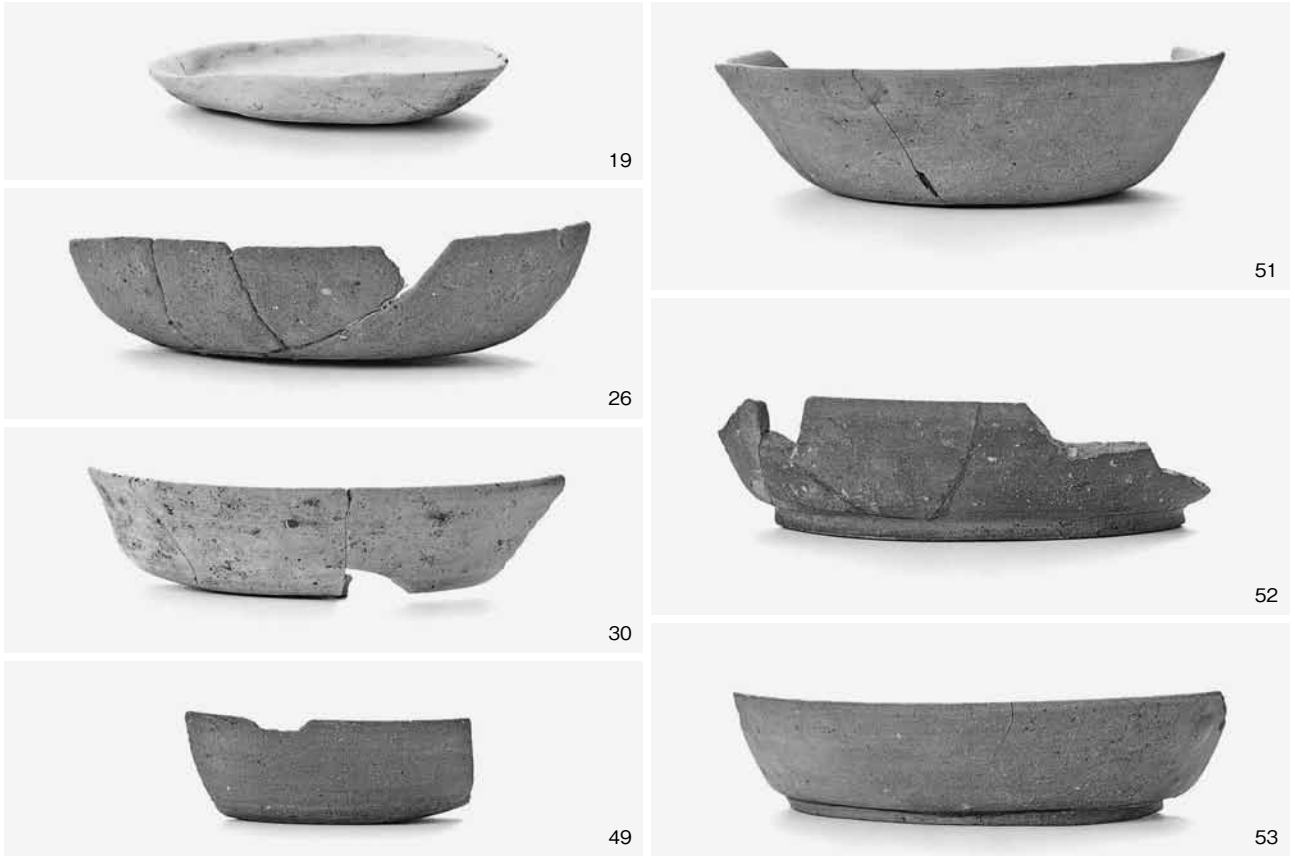
(1) 5 トレンチ溝 S D01 (南から)



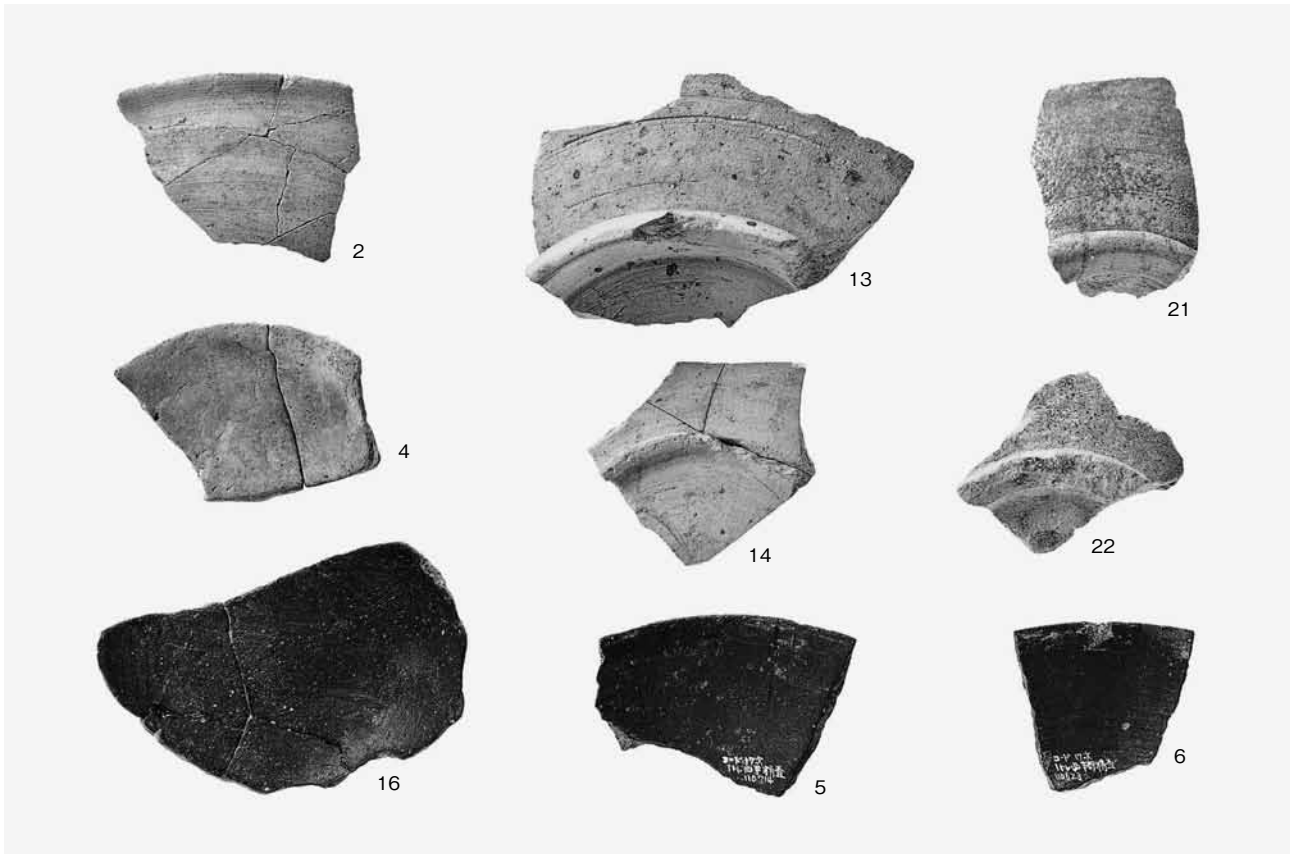
(2) 5 トレンチ溝 S D45~47 と
牛足跡 (南から)



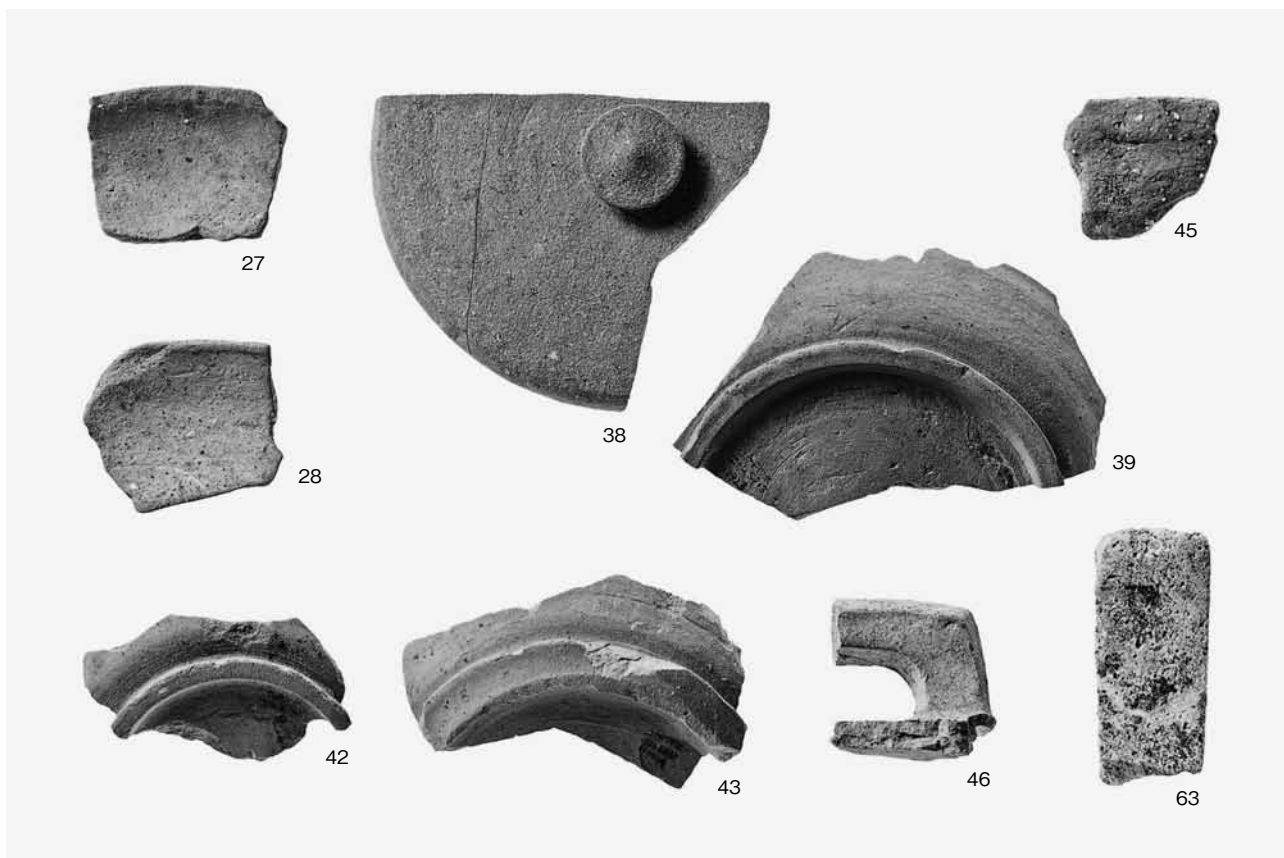
(3) 5 トレンチ水田遺構鋤先痕・
稲株痕 (東から)



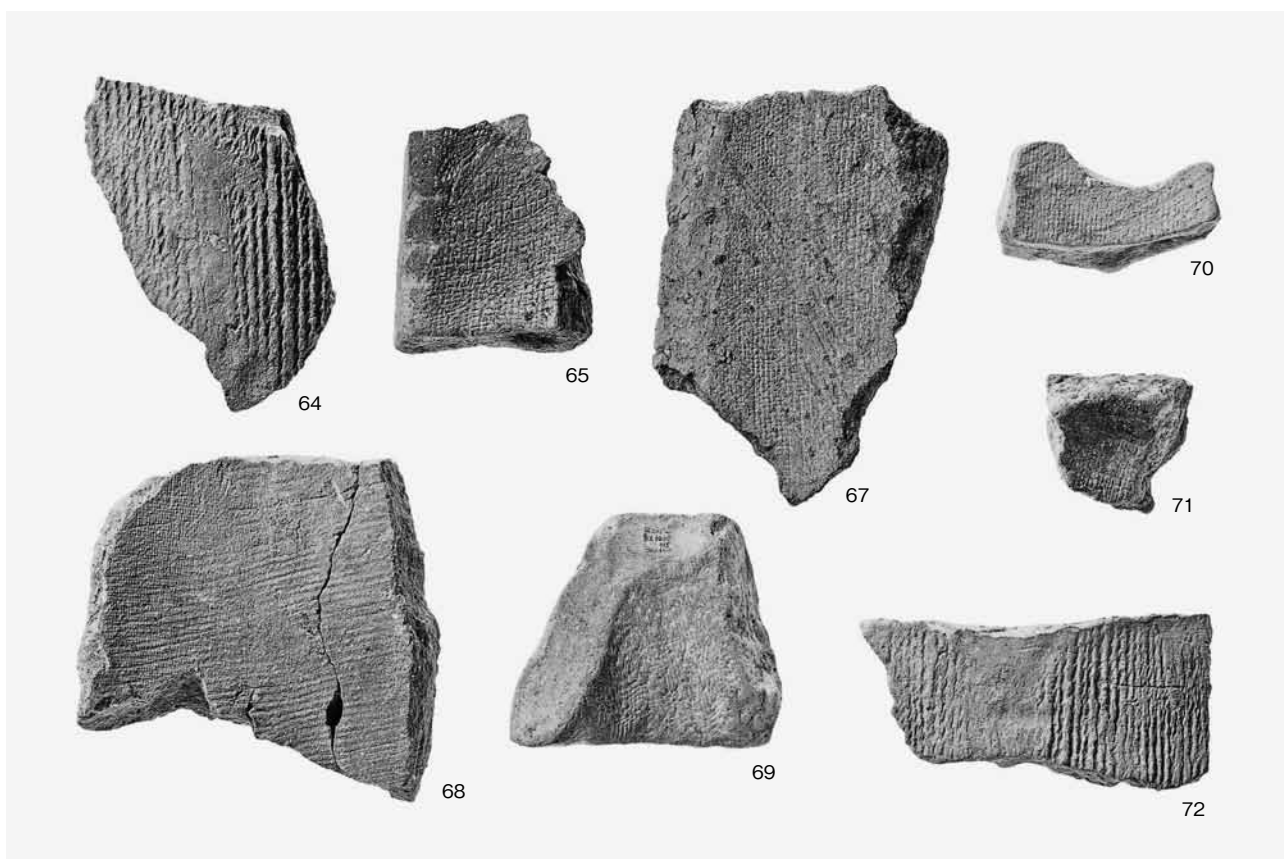
(1) 出土遺物 1



(2) 出土遺物 2



(1) 出土遺物 3



(2) 出土遺物 4





出土遺物 6